

医心 伝心

6月10日はこどもの目の日

富山県医師会理事 金子 敏行

日本眼科啓発会議は、昨年、6月10日を「こどもの目の日」として記念日登録しました。「6歳までに弱視を治療して視力1.0を獲得」し、「6歳からも目を大切にして視力1.0を維持」していくという願いを込めて6月10日が選ばれました。

現在、日本眼科医会は「人生100年時代、切れ目なく国民の目を守る」をモットーに、清明な視覚を維持して健康寿命を延伸するために、各年代の課題に焦点を当てた眼科アドボカシー活動を行っています。眼底検査を訴えかけるACジャパンのキャンペーンや、職場の健康診断での眼疾患の発見についての働きかけなどですが、その一環として、こども家庭庁が創設される年に記念日を制定し、広く社会に子供の目の発達や健康に関心を持っていただくきっかけにしたい、とのねらいです。

以前からの懸案であった3歳児健診での屈折検査は、富山県では全自治体で採用され、公費補助が実現したことで、全国でも86%まで普及してきました。導入された自治体すべてで弱視の発見率は2倍以上に改善しており、喜ばしいことです。

ただし、どのようなシステムにも、すり抜ける見落とし症例は発生するものなので、なるべく複数回の検査機会が確保されていることが望ましいと思います。弱視に関しては、就学時健診では時期が遅すぎるので、それ以前に検査機会を設けたいところでした。

日本眼科医会では、2019年に「園医のための眼

科健診マニュアル」を作成、配布し、眼科園医の配置されていない幼稚園、保育園においても円滑かつ正確に視力検査を含めた眼科健診が行われるよう働きかけてきました。教育現場においても徐々に意識付けは改善しているように思いますが、やはり個々の施設によって対応がばらついてしまうことは避けられないでしょう。

昨年10月、こども家庭庁が5歳児健診の公費負担に向けた提言を行いました。不勉強にして今まで知りませんでした、今のところ全国の15%ほどの自治体で、任意健診として5歳児健診を行っているようです。富山県ではまだ行われていません。3歳児健診では判定しにくい発達障害を見つける機会として有用との評価で、公費負担で無料健診になる方向性のようなのですが、希望者のみか全員か、導入時期などはまだ決まってないようです。現在の健診内容を調べると、視力検査をしているところは一部のようなのです。せっかく各自治体に屈折機器が配備されたのですから、富山県でも5歳児健診が開始されるあかつきには、視力検査、屈折検査が組み込まれるよう期待しています。

最後に案内です。7月28日に、富山国際会議場で「目の健康講座」が開かれ、こどもの目の日にちなんだ講演が行われます。興味のある方はぜひ足をお運びください。